

イシドジョウ、アカザ、カワヒガイ～水槽内繁殖の試み～

佐々木 興（環境修復プロジェクト）

環境修復プロジェクトでは、島根県立宍道湖自然館と協力して島根県内に生息する希少生物の保護・繁殖に向けた飼育技術の開発を行っている。カワヒガイ、イシドジョウ、アカザは絶滅のおそれがある希少生物であり、それぞれ特異な繁殖生態をもっている。宍道湖自然館では飼育下での繁殖が実現できておらず、今回は人工産卵床を用いた実験を試みた。いずれも繁殖には至らなかったが、その実験の概要と今後の展望について紹介する。

カワヒガイは河川中・下流や水路などに生息し、タナゴの仲間と同様に淡水二枚貝の殻の中に産卵する。生きた貝では産卵の確認が困難なため、市販容器を使って模擬的な貝を作り、これを産卵床として水槽内繁殖を試みた。

イシドジョウは、河川上・中流の石や砂礫の下に潜って繁殖する。宍道湖自然館では2003年に水槽内で稚魚が確認されたが、卵や仔魚の段階を確認することはできなかった。そこで産卵やふ化仔魚を確認できるように、緩衝材を用いた人工産卵床を作成して繁殖を試みた。

アカザは河川上・中流の石の下に潜って産卵し、オスが卵を保護する。繁殖確認は石をめくる必要があるが、その際に驚いて巣穴を放棄するため、刺激を与えずに観察できるようにアクリル板と素焼きの板を用いた人工産卵床を作成して繁殖を試みた。

いずれの種も春から初夏にかけて繁殖期を迎え、冬期の低水温を経ることで成熟が進むと考えられる。人工産卵床を利用する様子も確認されていることから、今春からの繁殖が可能と考えている。これが成功すれば繁殖生態を解明する興味深い事例になり、その特異性を水族館で紹介するうえでも展示効果は大きいと期待している。



イシドジョウの人工産卵床



アカザの人工産卵床